

第40回 日本泌尿器科学会中部総会 ミニシンポジウム 「尿路結石症：基礎と臨床」

(和歌山医科大学泌尿器科学教室)

大 川 順 正

(三重大学医学部泌尿器科学教室)

川 村 寿 一

司 会 の 言 葉

最近、尿路結石というテーマは各種学会で取り上げられる機会が多いが、決して討論しつくされた命題ではない。地味な成果の発表を積み重ね、成因解明や再発予防への手がかりをつかむことが大切である。このミニシンポジウムは5名の主発言者と3名の追加発言者により構成され、以下にその発言順に発表内容を論文形式にまとめていただいた。

I. 基礎的検討

1. 宮沢氏（金沢医）には *in vitro* における結晶形成実験が *in vivo* でその成因解明にどこまでせまれるかというテーマをさしあげた。結晶核形成、成長、凝集過程におけるクエン酸やペントサンポリ硫酸ナトリウムの影響を発表していただいた。これに追加の形で、宇都宮氏（阪大）は臨床応用の立場から *in vitro* 結晶形成に対する和漢薬の構成生薬それぞれの働きについて述べられた。

2. 安川氏（和医大）は尿中の結石形成阻止物質としてクエン酸に注目していただき、結石患者のクエン酸代謝異常という立場から腸管におけるカルシウム吸収におよぼすクエン酸の影響を述べていただいた。これに対して伊藤氏（帝京大市原）には尿中蔞酸排泄量からみたクエン酸およびカルシウム同時投与の影響を追加していただいた。

3. 山川氏（三重大）には生体における蔞酸代謝の review をしていただくとともに、尿中の蔞酸排泄量の大小からその代謝異常を論ずるだけでなく、腎、腸管上皮や赤血球膜の生体膜における蔞酸輸送の異常という観点から蔞酸の結石発生へのかかわりあいを述べていただいた。

II. 臨床的検討

1. 尿路結石の治療に関して、今日、ESWL 万能時代といえるかも知れないが、東氏（京都武田病院）にはドルニエ/エダップ両機種を使った豊富な経験より ESWL で治療がむづかしい症例を中心に述べていただき、山本氏（市立伊丹）には尿管結石やシスチン結石に対して Endourology の補助的手段が必要なことを追加していただいた。

2. 結石成因の解明への手がかりとして生体内におけるクエン酸や蔞酸の意義が少しずつ明らかにされ、治療法としては ESWL 主体の時代に入ったといえる。結石は長年にわたって培われて発生をみるもので、かつ、きわめて再発しやすいものである。この結石発生（再発）防止の立場から食事との関係は無視できない。井口氏（市立貝塚）には食事指導により結石再発がどれだけ抑えられるかをお話していただいた。

ESWL の登場は結石患者に非常な恩恵を与えた反面、泌尿器科の治療体系に少なからず影響をおよぼしたといえる。現在、本邦では第3世代までの ESWL が300台近く稼働しているときいている。「star wars ならぬ stone wars」の時代に入ったといえる。治療が安易に受けられるようになった結果、患者の follow up や再発予防への日常の努力がおろそかになり、結石の成因解明への諸研究を行うこともむづかしくなってきたともいえる。しかし、このような時だからこそ結石研究への前向きの姿勢が失われないことを願うものであり、本学会でこのようなシンポジウムを企画された前川正信会長のご趣旨にもそうものと考え。そして、しばらく時間をおいて再びこのようなシンポジウムが開かれることを期待する。シンポジストの皆様の益々のご精進をお祈りする。

(Received on February 18, 1991)
(Accepted on April 22, 1991)